

問1 古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。
2. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。
3. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。
4. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。

問2 5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権
2. 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権
3. 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利
4. 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可

問3 古墳時代から飛鳥時代にかけて、大陸からの渡来人が伝えた新しい技術によって製作されるようになった「須恵器」について、その特徴や背景を説明したのとして最も適切なものを選択してください。（2023年 愛媛公立入試 類似）

1. 穴窯（あながま）を用いて高温で焼成された、硬質で灰色の土器である。
2. 野焼きという古い技法で焼成された、赤褐色で厚手の土器である。
3. 宋から輸入された銅銭を溶かし、金属加工の技術を応用して作られた器である。
4. 備中鍬や千歯扱きといった農具とともに、江戸時代の農業発展を支えるために開発された。

問4 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 中国皇帝の権威を背景にするこ
2. 遣唐使を停止したことによる文
3. キリスト教の布教を阻止するた
4. 幕府が定めた禁教政策を東アジ

問5 5世紀頃、大和政権は近畿地方から遠く離れた地域まで勢力を拡大しました。各地の有力者の墓（古墳）から、当時の王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見されている事実は、当時の政治体制についてどのようなことを示していますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。（2017年 愛知公立入試 類似）

1. 地方の有力者が、大和政権を介さず独自に大陸と外交を行っていたこと
2. 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと
3. 仏教の伝来によって、全国の有力者が同じ信仰を持つようになったこと
4. 征夷大將軍が派遣され、東北地方まで完全に平定されたこと

問6 5世紀ごろ、大和政権（ヤマト王権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の新倉古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。（2019年 愛媛公立入試 類似）

1. 卑弥呼
2. ワカタケル大王
3. 聖徳太子
4. 中大兄皇子

問7 5世紀頃に現在の大阪府堺市などに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、当時の社会背景を説明したのとして最も適切なものはどれですか。（2024年 茨城県公立入試 類似）

1. 渡来人がもたらした仏教の教えを広めるための寺院として機能していた。
2. 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。
3. 東北地方から九州地方まで、各地の有力な豪族が中央政権から完全に独立して統治していた。
4. 稲作の豊作を祈るために、特定の支配者を持たない集落の人々が共同で管理する祭祀場であった。

問8 埼玉県の稲荷山古墳から見つかった「ワカタケル大王」の銘文がある鉄剣と、熊本県の江田船山古墳から見つかった同様の銘文がある鉄刀は、5世紀後半の日本列島の政治状況についてどのようなことを物語っていますか。最も適切な説明を選んでください。（2016年 三重公立入試 類似）

1. ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと
2. 関東地方と九州地方の有力な豪族が連合し、近畿地方のヤマト政権と対立していたこと
3. 日本列島は各地の豪族によって完全に分割統治されており、中央集権的な組織は存在しなかったこと
4. 大陸との交易はすべて関東地方の豪族が独占しており、鉄器の製造技術を独占していたこと

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問2	<b>答え 1</b> 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権	5世紀になると、ヤマト王権の王たちは「倭の五王（讚・珍・濟・興・武）」として中国の南朝に朝貢しました。彼らの主な目的は、日本国内の統一的な支配権を国際的に認めさせることだけでなく、当時進出を図っていた朝鮮半島南部における外交・軍事的な優位性を確保し、その立場を中国皇帝に正当化してもらうことにありました。
問3	<b>答え 1</b> 穴窯（あながま）を用いて高温で焼成された、硬質で灰色の土器である。	須恵器は、5世紀頃（倭王が中国に使いを送っていた時期）に朝鮮半島から渡来した人々によって製作技術が伝えられました。それまでの日本で見られた、野焼きによる赤褐色の土器（縄文土器・弥生土器・土師器）とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を使い、1000度以上の高温で蒸し焼きにする技術が用いられています。これにより、非常に硬く、水の漏れにくい灰色の仕上がりとなるのが特徴です。
問4	<b>答え 1</b> 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようとした。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問5	<b>答え 2</b> 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと	大和政権は、軍事力や外交力を背景に地方の首長たちと主従関係を結び、自身の統治体制に組み込んでいきました。有力者の墓から出土した銘文入りの鉄剣などは、地方首長が大和政権に従う代わりに、その土地の支配権を保証されたという政治的な結びつきを証明するものです。これにより、当時の日本列島において広域的な政治連合が形成されていたことがわかります。
問6	<b>答え 2</b> ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。
問7	<b>答え 2</b> 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。	近畿地方にある大仙古墳のような巨大な墳墓の築造には、極めて多くの人手と長い年月が必要でした。このような大規模な土木工事が可能であったことは、当時の大王が広い範囲にわたって人々を支配し、動員できるほど強力な権力を持っていたことを示しています。
問8	<b>答え 1</b> ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと	遠く離れた埼玉県（稲荷山古墳）と熊本県（江田船山古墳）の両方から、同一の首長（ワカタケル大王）に仕えていたことを示す遺物が見つかったことは、当時のヤマト政権の権威や支配体制が、近畿地方を中心に九州から関東にまで広く浸透していたことを示しています。これは、日本列島における統一国家形成の過程を理解する上で非常に重要な事実です。